

5-2-7 広島修道大学国際コミュニティ学部の教育の特色とねらい

国際コミュニティ学部の前身である、法学部国際政治学科は、冷戦の終結が宣言された翌年の1990年4月に設置されました。以来、30年近くにわたって、国際社会への関心と知識と政治学的知見を備え、多様なものの見方のできる卒業生を輩出してきました。国際コミュニティ学部は、この法学部国際政治学科を土台として、2018年4月に設置されました。

Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域で行動する）という言葉が最初に使われたのは1970年ごろと言われていますが、グローバリゼーションが進展し、地球の一体化が進んだ現在、この発想がますます必要になっています。グローバリゼーションが進めば進むほど地域の問題と地球全体の問題はその関連性を強めていきます。いわば私たちは、他国にある人々と私たち自身の生活を切り離すことのできない、地球規模の一体化した社会の中で生きているといえます。

企業の海外進出が国内の労働市場に影響を与えたり、イギリスのEU離脱問題が世界経済に影響したり、一地域の温室効果ガス排出が地球温暖化の問題に影響を与えたり、さまざまな例を挙げることができます。このような国際社会全体をひとつのコミュニティにとらえ、学びの対象とするのが国際コミュニティ学部なのです。

Think Globallyは「国際的な思考」であり、Act Locallyは「地域社会からの行動」です。このふたつを重視する教育を行うのが国際コミュニティ学部の教育です。国際的な思考と地域社会からの行動はシームレスにつながっています。コミュニティも個と個による最小単位のものから、ある集団、ある地域、国、そして国を超えるものまで拡がりがあり、地球全体もひとつのコミュニティです。さらに、コミュニティはそれぞれが他のコミュニティと関わり合い、グローバルとローカルの境界も複雑化しています。

このような複雑化した社会をより良いものとするため、国際政治学科はどちらかというコミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえ、地域行政学科はどちらかというローカルなコミュニティのありようから社会をとらえる視点を持ちます。

この両学科が、カリキュラムを共有しつつ、ふたつの視点からのアプローチにより、Think Globally, Act Locallyを実践できる人材、さらには、私たちの社会をより良い方向へと導く政治・政策、提案・活動を生み出すことに寄与できる人材を社会に輩出することを、国際コミュニティ学部の教育目標としています。

1. 国際政治学科の教育の特色とねらい

国際政治学科はコミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点を重視し、広島と世界各国・各地域との架け橋となりグローバル社会に積極的に関与することのできる人材の育成を目標に掲げています。みなさんには卒業までに、多様な立場や価値観を尊重し、主体性をもって、さまざまな国の人々と相互協力のできる市民としての国際的知性と良識を身につけてほしいと思います。

このために、国際政治学科では、年次の進行とともに基礎から発展へ国際政治に関する知識や知見を積み上げていくことができるように、初年次教育の一環として「学部入門科目」と「学科基礎科目」を配置し、専門性の修得では、専門領域の中心的科目を4つのグループに分け、配置しました。すなわち、「国際コミュニケーション領域」「国際政治領域」「地域研究領域」「政治・経済領域」の4分野で、とくに「国際コミュニケーション領域」の英語科目は、国際コミュニケーションのツールとしての英語学習を1年次に集中しておこなうためのものです。

加えて国際コミュニティ学部における学びの特徴として、「体験を通して考える」プログラムを具体化していることが挙げられます。国際政治学科においては、1年次の夏休みから第3学期にかけて、

海外研修や異文化交流など、具体的に世界の広がりや多様性を考える科目が置かれています。学科の専門領域の学びが、実際の世界とどのように関わっているか入学から間もない段階で考える機会を得られること、これは国際コミュニティ学部における学びの大きな特色と言えるでしょう。

2. 地域行政学科の教育の特色とねらい

地域行政学科は、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点を重視し、政治・行政への知識を土台に地域社会のニーズを政策に反映させ地域と協働して課題解決を図り、地域社会の発展に貢献する人材の育成を目標に掲げています。みなさんには卒業までに、多様な立場や価値観を尊重し、主体性をもって、地域社会のさまざまな立場の人々と相互協力し、活力を生み出す知性と良識を身につけてほしいのです。

このために、地域行政学科では、年次の進行とともに基礎から発展へ地域行政に関する知識や知見を積み上げていくことができるように、初年次教育の一環として「学部入門科目」と「学科基礎科目」を配置し、さらに専門領域の中心的科目を4つのグループに分け、配置しました。すなわち、「政治領域」「行政領域」「政策領域」「法律領域」の4分野で、地域行政学科では1年次にも、これら4領域のもっとも基礎的な科目については、1年次からの学修が可能になっており、地域の諸問題に取り組むための基礎知識を養います。

加えて国際コミュニティ学部における学びの特徴として、「体験を通して考える」プログラムを具体化していることが挙げられます。地域行政学科においては、1年次の夏休みから第3学期にかけて、公務職場や地域組織における現場体験を通して、地域課題に直に接する科目が置かれています。学科の専門領域の学びが、実際の地域課題とどのように関わっているか入学から間もない段階で考える機会を得られること、これは国際コミュニティ学部における学びの大きな特色と言えるでしょう。